

10~12月期業況は4四半期ぶりに改善
【特別調査-「2017年(平成29年)の経営見通し」】

【調査要領】

調査時点：2016年12月上旬
調査対象：西兵庫信用金庫お取引先102社
調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査
調査票回収：101社
調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフィニション・インデックス) による分析
景況の方向感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50%-(悪い)25%=(D.I.)25

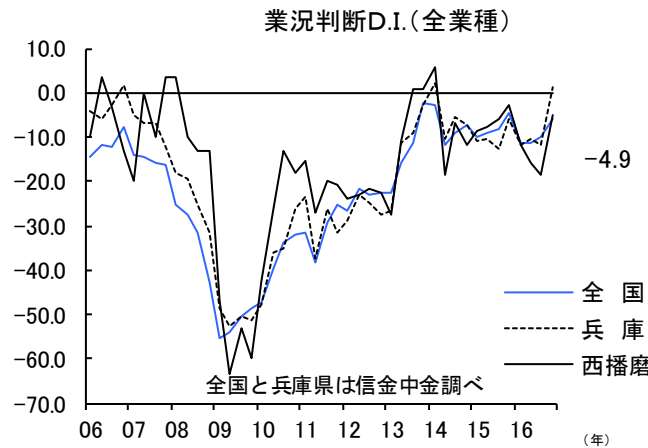
業種別調査先数

業種	調査企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	18
不動産業	5
総計	102

全業種総合

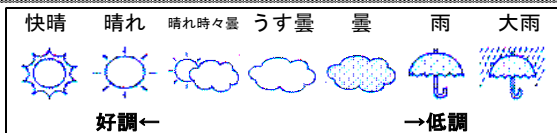
概況

景況感は4四半期ぶりに改善- 16年10~12月期(今期)の業況判断D.I.は△4.9と、4四半期ぶりの改善となった。前期比13.7ポイントもの大幅な改善を見せた。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業の割合が減少したものの、それ以上に業況が「悪い」と回答した企業の割合が減少したため改善した。収益面では、前年同期比の売上額判断D.I.が△10.8と前期比5.9ポイント改善、同収益判断D.I.は△8.8と前期比12.8ポイント改善した。



【業種別天気図】 過去4四半期の業況判断D.I.を平均して判定

業種名	2016年7~9月	2016年10~12月	2017年1~3月(見通し)
総合	晴	晴	晴
製造業	晴	晴	晴
卸売業	雨	雨	雨
小売業	晴	晴	晴
サービス業	晴	晴	晴
建設業	晴	晴	晴
不動産業	晴	晴	晴



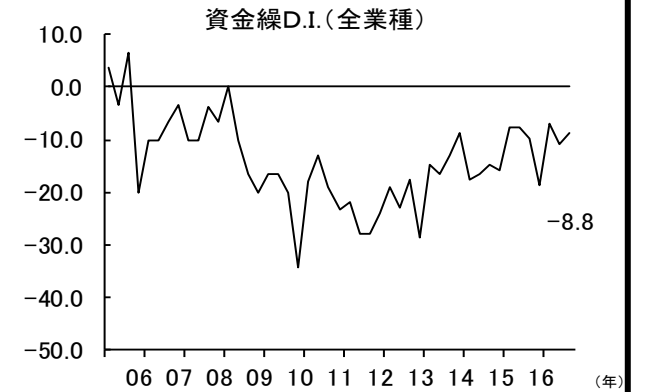
販売価格は厳しさが和らぎ、仕入価格は上昇が強まる- 16年10~12月期(今期)の販売価格判断D.I.は、前期に比べ価格「上昇」と回答した企業の割合は横ばいとなり、価格「下降」と回答した企業の割合が減少したため、前期比2.0ポイント改善し0.0となった。仕入価格判断D.I.は、前期に比べ価格「上昇」と回答した企業の割合は横ばいとなり、価格「下降」と回答した企業の割合が減少したため、前期比1.0ポイント悪化し6.9となった。

全業種総合

概況

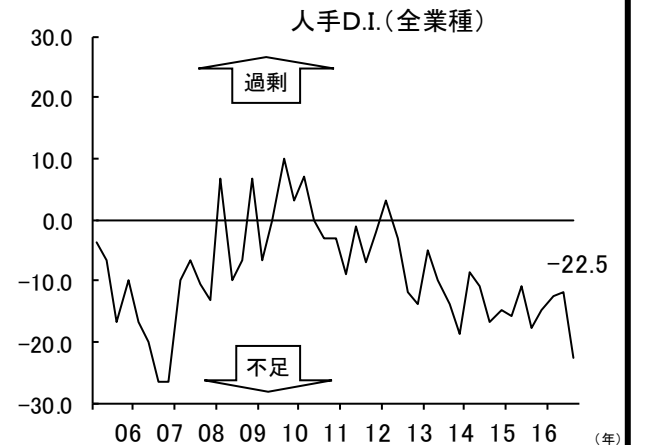
資金繰判断D.I.は改善-

16年10~12月期(今期)の資金繰判断D.I.は△8.8と、前期比2.0ポイント改善した。業種別では、前期比、サービス業が15.8ポイント、建設業が16.6ポイントそれぞれ改善し、製造業が6.3ポイント、卸売業が9.1ポイント、小売業が5.9ポイントそれぞれ悪化した。不動産業は横ばいとなった。



人手過不足判断D.I.(過剰-不足)は、人手「不足」感が増す-

16年10~12月期(今期)の人手過不足判断D.I.は△22.5(マイナスは人手「不足」超)と4年と2四半期連続の「不足」超となった。残業時間判断D.I.は、前期に比べ残業時間が「増加」したとする企業の割合が増加し、残業時間が「減少」したとする企業の割合が減少したため、前期比9.8ポイント上昇し△2.0となった。

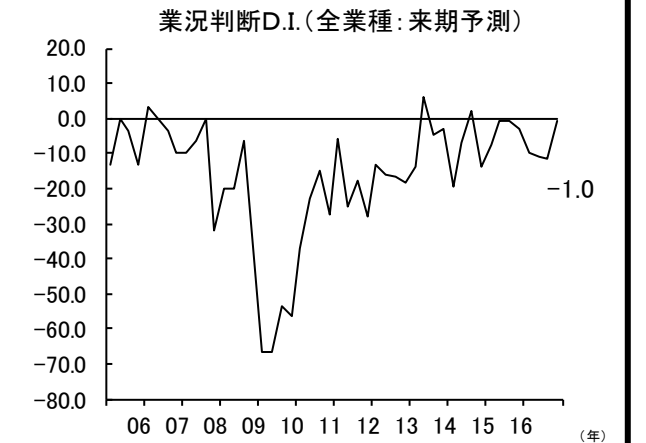


設備投資実施企業割合は増加-

16年10~12月期(今期)の設備投資実施企業割合(不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合)は24.7%と、前期比1.0ポイント増加した。

来期の景況感は、今期実績と比べ改善の見通し-

17年1~3月期(来期)の予想業況判断D.I.は△1.0と、今期実績と比べ3.9ポイント改善の見通しとなっている。なお、今回の予想改善幅は、過去10年の平均(6.7ポイントの低下見通し)を大きく上回った。業種別では、今期実績と比べ、製造業が3.1ポイント、建設業が11.1ポイント、不動産業が20.0ポイントそれぞれ改善する見通しであり、卸売業、小売業、サービス業が横ばいの見通しとなっている。



経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	売上の停滞・減少	37%
2位	同業者間の競争の激化	35%
3位	利幅の縮小	28%
4位	人手不足	19%
5位	人件費の増加	12%

経営上の問題点

経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が37%、「同業者間の競争の激化」が35%、「利幅の縮小」が28%と多く、その他では、「人手不足」が19%、「人件費の増加」が12%となっている。

当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	52%
2位	販路を広げる	47%
3位	人材を確保する	25%
4位	情報力を強化する	16%
5位	宣伝・広告を強化する	14%

当面の重点経営施策

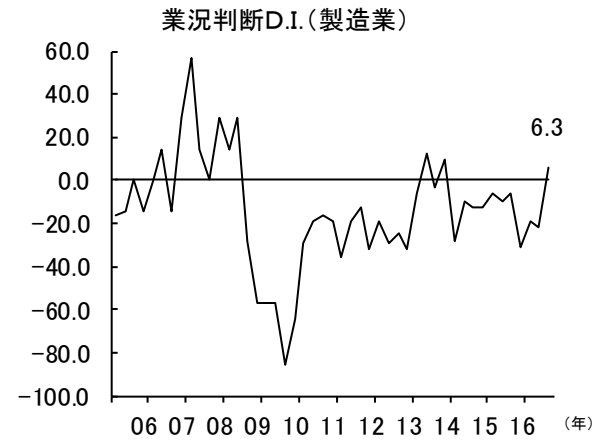
当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が52%、「販路を広げる」が47%、「人材を確保する」が25%と多く、その他では「情報力を強化する」が16%、「宣伝・広告を強化する」が14%となっている。

※2009年12月期までは、従来から信金中金が「全国中小企業景況動向調査」として実施している西兵庫信用金庫調査対象30先のデータであり、2010年1月以降は、新たに調査対象先を追加し西播磨地域に限定したデータとなっている。

1. 製造業

—製造業の景況感は改善—

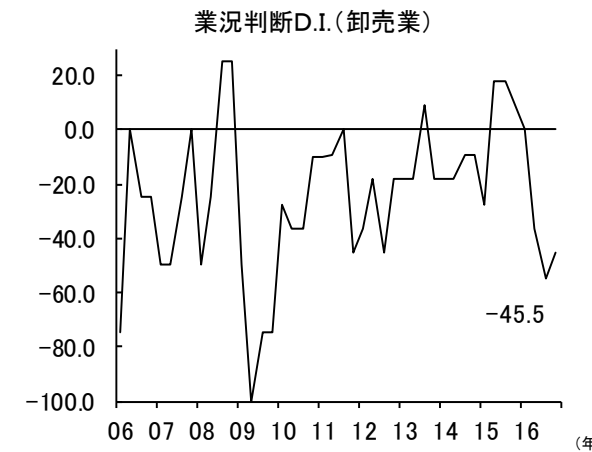
16年10～12月期(今期)の業況判断D.I.は6.3と、前期比28.2ポイント改善しプラスに転じた。
 前年同期比売上額判断D.I.は△6.3と12.5ポイント改善となり、同収益判断D.I.は9.4と前期比25.0ポイントの改善となった。
 資金繰り判断D.I.は0.0と前期比6.3ポイントの悪化となった。
 人手過不足判断D.I.は、前期比28.2ポイント低下の△31.3と、人手不足感が強まった。
 設備投資実施企業割合は37.5%と、前期に比べて12.5ポイント増加した。
 17年1～3月期(来期)の予想業況判断D.I.は9.4と、今期実績比3.1ポイントの改善を見込んでいる。



2. 卸売業

—卸売業の景況感は改善—

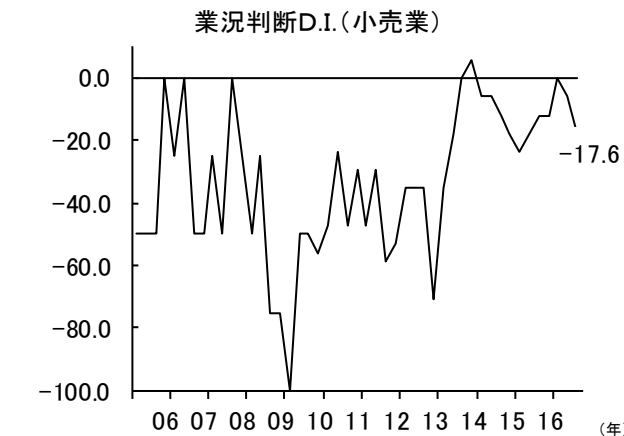
16年10～12月期(今期)の業況判断D.I.は△45.5と、前期比9.0ポイントの改善となった。
 前年同期比売上額判断D.I.、同収益判断D.I.ともに△45.5と18.2ポイントの悪化となった。
 資金繰り判断D.I.は△27.3と9.1ポイントの悪化となった。
 人手過不足判断D.I.は前期比18.2ポイント低下の△27.3と、人手不足感が強まった。
 17年1～3月期(来期)の予想業況判断D.I.は△45.5と、今期実績比横ばいを見込んでいる。



3. 小売業

—小売業の景況感は悪化—

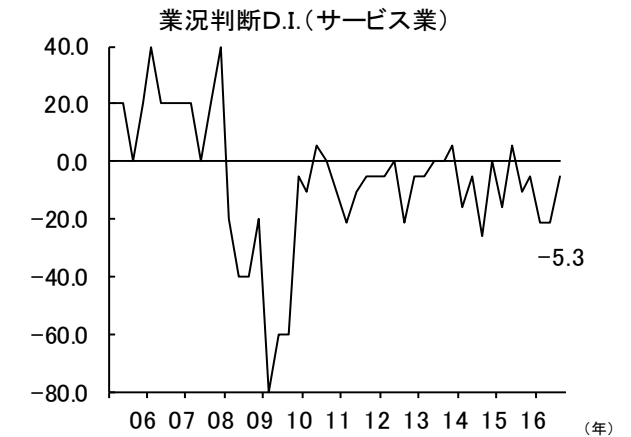
16年10～12月期(今期)の業況判断D.I.は△17.6と、前期比11.7ポイントの悪化となった。
 前年同期比売上額判断D.I.は△35.3と、前期比横ばいとなり、同収益判断D.I.は△23.5と、前期比5.9ポイントの改善となった。
 資金繰り判断D.I.は△29.4と、前期比5.9ポイントの悪化となった。
 人手過不足判断D.I.は0.0と前期比横ばいとなった。
 17年1～3月期(来期)の予想業況判断D.I.は△17.6と、今期実績比横ばいを見込んでいる。



4. サービス業

—サービス業の景況感は改善—

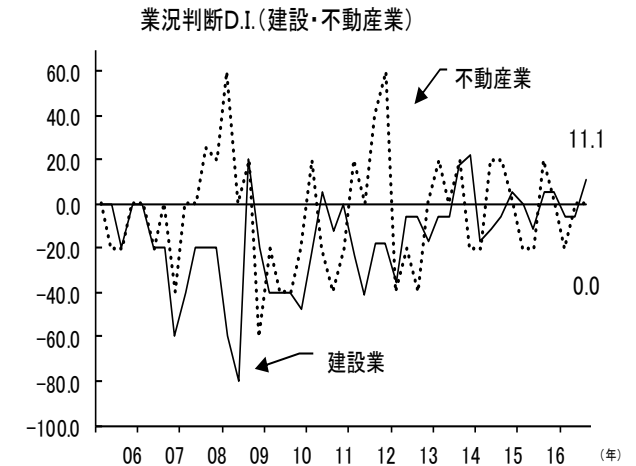
16年10～12月期(今期)の業況判断D.I.は△5.3と、前期比15.8ポイントの改善となった。
 前年同期比売上額判断D.I.は10.5と、前期比15.8ポイントの改善となり、同収益判断D.I.は0.0と、前期比21.1ポイントの改善となった。
 資金繰り判断D.I.は0.0と前期比15.8ポイントの改善となった。
 人手過不足判断D.I.は△21.1と前期比横ばいとなった。
 残業時間判断D.I.は15.8と前期比15.8ポイント上昇した。
 17年1～3月期(来期)の予想業況判断D.I.は△5.3と、今期実績比横ばいを見込んでいる。



5. 建設業、不動産業

—建設業の景況感は改善—

16年10～12月期(今期)の建設業の業況判断D.I.は11.1と、前期比16.7ポイント改善しプラスに転じた。
 前年同期比売上額判断D.I.は5.6と、前期比横ばいとなった。
 同収益判断D.I.は△11.1と、前期比5.6ポイント改善した。
 受注残判断D.I.は22.2と、前期比38.9ポイント改善した。
 資金繰り判断D.I.は△5.6と、前期比16.6ポイント改善した。
 人手過不足判断D.I.は△33.3と前期比横ばいとなった。
 17年1～3月期(来期)の予想業況判断D.I.は22.2と、今期実績比11.1ポイントの改善を見込んでいる。



—不動産業の景況感は横ばい—

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、16年10～12月期(今期)の業況判断D.I.は0.0と、前期比横ばいとなった。前年同期比売上額判断D.I.、同収益判断D.I.ともに△20.0と、前期比20.0ポイントの改善となった。資金繰り判断D.I.は0.0と、前期比横ばいとなった。在庫過不足判断D.I.は△20.0と、前期比20.0ポイント低下し品薄へと転じた。17年1～3月期(来期)の予想業況判断D.I.は20.0と、今期実績比20.0ポイントの改善を見込んでいる。

6. 経営者のコメント

製造業: 売上、収益共に前期比やや増加、昨年の同時期に比べても増加している。同業者間の競争の激化、原材料高、地場産業の衰えがあり、今後は販路拡大が課題である。
卸売業: 新たな販路先の開拓に力を入れている、目に見えて効果が出てくるには数年かかるので地道に行っていく。
小売業: 同業者間の競争激化により売上は低迷しているため、経費削減にて利益計上できるように経営

努力をしている。従業員の教育にも力を入れたい。
サービス業: 今期の収益は昨年と比較し、やや増加傾向である。人材確保を優先的に行っており、また新たな事業も視野に入れ収益の安定を図っていく。
建設業: 下請の確保難、大手、同業者間の競争が激化している。
不動産業: 売上は順調に推移している。利便性や商業地など良質な物件を探している。

※2009年12月期までは、従来から信金中金が「全国中小企業景気動向調査」として実施している西兵庫信用金庫調査対象30先のデータであり、2010年1月以降は、新たに調査対象先を追加し西播磨地域に限定したデータとなっている。